

最新イベント報告

みんなのダンスフィールド「のはらぐみ」第2回パフォーマンス

かかしのいる風景ーたんたと続く田んぼに宿る小さな息吹ー流れる時間は

...

みんなのダンスフィールドで活動続けてきた若手を中心に構成されたユニットである「のはらぐみ」。

2月18日、北千住にある東京芸術センター「ホワイトスタジオ」にて、2回目の公演を行いました。

「自分たちでパフォーマンスがしたい！」と広がる思いを胸に、公演まで活動を重ねてきた私たち。限られた活動時間をどう使うか？時間外は集まることができなくても、せめてイメージの共有ができないかと、メールや電話でのやり取りが頻繁に行われました。

舞台直前まで、あれもやりたい！でも時間がない！舞台の準備だってできていない！と本当に大慌てでした。表現をする・伝えるって全く一筋縄にはいきませんね。「表現を観客の方にお届けする」という目標はみな同じです。そこへ向

かって、どう取り組むか。踊りや舞台装置は然り、お客さんを、そして舞台をつくるメンバー自身を想うゆとりを果たして作れているのか。考えさせられる場面がたくさんありました。



公演の様子

さらに今回は、床一面フラットなスタジオが会場だったため、舞台と客席との

境目の無い世界を作ることができればという思いがありました。作品のひとつ、『光の雨のてあわせ』では、会場にいる人全員が光の「てあわせ」によって繋がるというこれまでの経験を活かした試みを行いました。作品の途中でメンバーがランプや光る球を持って、客席を渡ります。じんわり灯る明かりの中で、お互いがつられ合って動き出し、そうして生まれる表現が会場全体を包むのです。



『光の雨のてあわせ』で観客が参加する様子

また、今回、会場の内外で公演を支えてくださった方々もいます。みんなのダンスフィールドで生まれたボランティア「耕し隊」のみなさまです。表現の場を共に“耕し”豊かにしてほしい。そんな思いがこの名前に込められています。私たちの活動はこうした方々を始め、多くの支えがあり、成り立っています。

公演を通じて、メンバーひとりひとりが改めて真剣に、表現と向き合い考える

瞬間が多くありました。ここで生まれた一つの「のはら」が、より豊かで拓けた

「のはら」へ育っていくように、私たちは外へどう向き合うべきか・・・ホーム

ページの中で、それぞれが今回の公演に関するコメントを寄せています。こち

らの URL からご覧ください。

ホームページ：<https://www.inclusive-dance.org/activitylog/category/パフォーマンス>

マンス

みんなのダンスフィールド「のはらぐみ」 大川日向子・大谷野の子